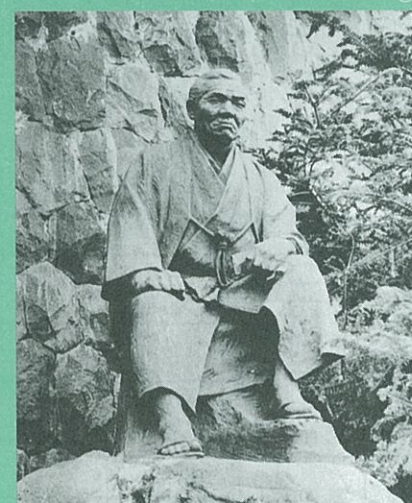




①



②



③



④

シリーズ・近代日本のモニュメント 1

▼シリーズ
総監修 ▲北澤憲昭
美術評論家・
女子美術大学教授

銅像
写真集

偉

人

の

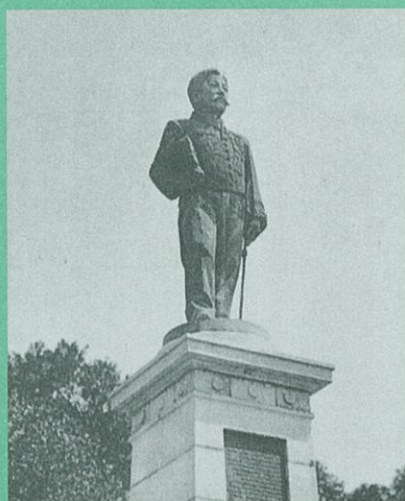
佛

おもかげ

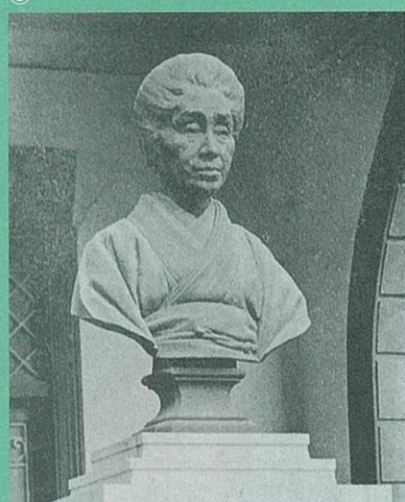
全二巻

▼監修
解説 ▲田中修二
大分大学准教授・
近現代日本美術史

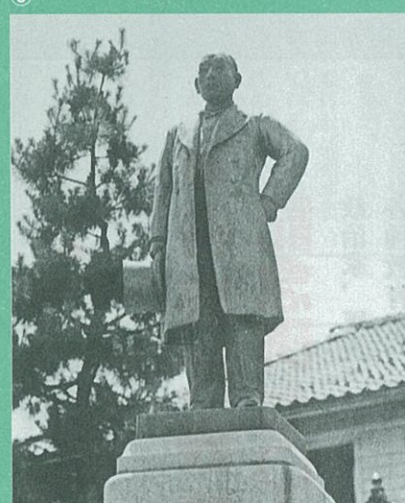
明治、昭和初年の銅像七〇〇余点の写真・銘文・略歴・建設に関する諸データを網羅



⑤



⑥

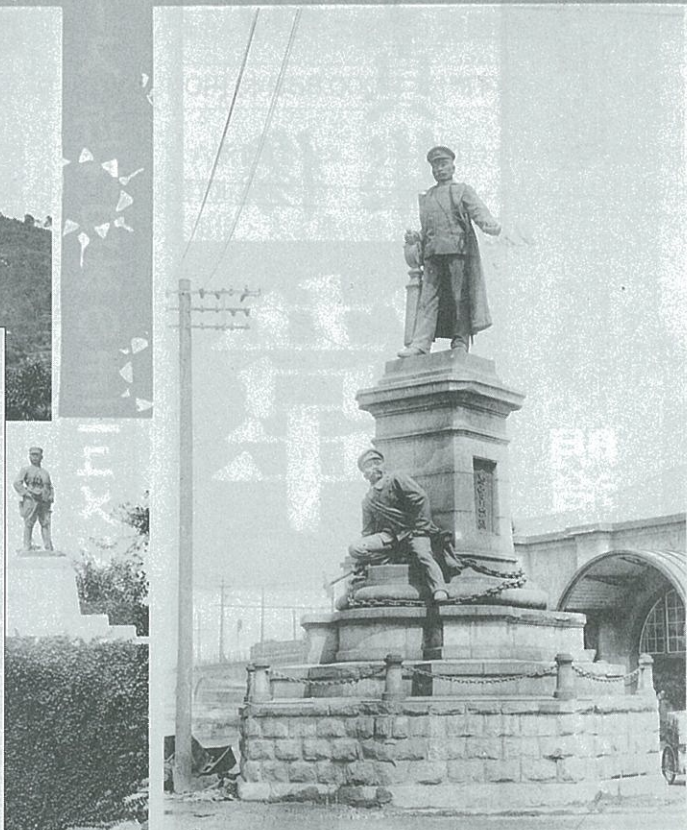


⑦



⑧

ゆまに
書房 YUMANI
SHOBOU



——〔偉人傳第一二頁參照〕——

70%に縮小

像主身分・職業

身分・職業	割合
実業家	18%
軍人探偵	6%
軍人	6%
(国政)政治家	9%
(歴史の人物: 俗人)	9%
(歴史の人物: 聖人)	2%
(天皇・皇族)	2%
外人	5%
学者・教育者	5%
その他	7%

●(右・右端 NO.14)

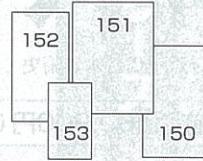
広瀬武夫・杉野孫七(東京一九一〇年)

いずれも海軍軍人。広瀬武夫は、日露戦争中の旅順港閉塞作戦において行方不明となった部下の杉野孫七を探して退避が遅れ、ロシア海軍の砲撃の直撃を受けて戦死した。死後、彼を祀る広瀬神社が故郷の大分県竹田に創建され、近代日本初めての軍神となり国民的英雄とされた。戦後、軍国主義的な銅像の代表格として真っ先に撤去された。

●(左・中央 NO.15)

伊藤博文(兵庫一九一〇年)

神戸にはこの銅像以前にも伊藤の銅像があったが、日露戦争講和に反対する民衆によって引き倒されていた。伊藤がハルビンで暗殺されると、その死を悼んで銅像が再建された。しかし、その像も戦時中の金属供出によって失われた。建築家武田五一の設計になる台座は、世界七不思議の一つ、古代の墓廟マウン・レイオンを模したものと言われている。



図録篇
見本

70%に縮小

構造
1丈3尺 1丈5尺5寸
1丈2尺
質：青銅 1丈 1000貫
5尺 丈
3寸8分 3寸3分 2尺4分 1丈6尺9寸 8尺6寸 尺6寸 3尺余
6尺 丈：花崗岩
3尺 9尺 5尺2寸3分 1丈3尺 1丈6尺

工費	建設者	存失	失われた理由	現状	性別	像主身分・職業	形式	形態
114,046円 36銭5厘	陸海軍赤十字社其他有志	存		現存	男	皇族	彫像	全身像
	山形有明、大山巖	存		現存	男	皇族	彫像	全身像
	長谷川好道	存		移設	男	皇族	彫像	全身像
	海軍大学校卒業生有志	存		移設	男	皇族	彫像	全身像
1,000円	陸軍歩兵少佐高井橋次郎外九百七十三名	存		現存	男	皇族	彫像	全身像
	福岡県庁(湯池武夫氏主として建設に幹旋す)	存		現存	男	皇族	彫像	全身像
	大工左官組合 組合長 原与吉	未詳	未詳	未詳	男	皇族	彫像	全身像
	軍人会総代 米沢天健	未詳	未詳	未詳	男	皇族	彫像	全身像
	野村与平 大源与三右衛門	存		現存	男	皇族	彫像	全身像
		未詳	未詳	未詳	男	皇族	彫像	全身像
		存		移設	男	皇族	彫像	全身像
20,460円	初瀬六助、鈴山熊一、宮崎権蔵、坂本清九郎、高増善一、田沢寿一、野中唯次、馬場秀一、中島喜一、日浦儀八	未詳	未詳	未詳	男	《歴史的人物：聖人》	彫像	全身像
約20,000円	代表 亀井源太郎、西村竹次郎	未詳	未詳	未詳	男	《歴史的人物：聖人》	彫像	全身像
	日蓮銅像保存会	存		現存	男	《歴史的人物：聖人》	彫像	全身像
		未詳	未詳	未詳	男	《歴史的人物：聖人》	彫像	全身像
3,000円	小林源一郎	失	供出	再建	男	《歴史的人物：俗人》	彫像	全身像
		未詳	未詳	未詳	男	《歴史的人物：俗人》	彫像	全身像
	住吉吉左衛門	存		現存	男	《歴史的人物：俗人》	彫像	全身像
	徳川光圀公	未詳	未詳	未詳	男	《歴史的人物：俗人》	碑	全身像
	大州藤樹会	失	不詳	別作	男	《歴史的人物：俗人》	彫像	全身像
		未詳	未詳	未詳	男	学者・教育家	彫像	全身像
6,800円	藤崎禪智、木金一、磯野七平	失	供出	別作	男	学者・教育家		
7,400円	忠臣村山氏銅像建設会	未詳	未詳	未詳	男	学者・教育家		
4,000円	見延山久遠寺	失	供出	再建	男	《歴史的人物：俗人》		
		存		現存	男	《歴史的人物：俗人》		
	素行会々長 今田榮次	失	供出	別作	男	《歴史的人物：俗人》		
	大和民労会代表河合徳三郎	存		現存	男	《歴史的人物：俗人》		
	緑綬会 井上浅次郎 松下彦兵衛 井上貞次郎 小泉清兵衛 五百井長平 小西藤兵衛 春元重助 駒井庄太郎 荒井長次郎 島田彌平 岡崎千代造 山辺丈夫	失	供出	無	男	《歴史的人物：俗人》		
		失	供出	無	男	《歴史的人物：俗人》		
	朝田利太郎	失	不詳	別作	男	《歴史的人物：俗人》		
	東京府	失	供出	無鋳・移設	男	《歴史的人物：俗人》		
	東京府	失	供出	無	男	《歴史的人物：俗人》		
2,500円	那賀郡跡市村 近重小次郎	失	供出	無	男	《歴史的人物：俗人》		
	旧出雲藩士及其縁故者三百人ノ共同建設	失	供出	無	男	《歴史的人物：俗人》		
	上杉謙信公三百五十年奉賛会	未詳	未詳	未詳	男	《歴史的人物：俗人》		
	北林宗次郎	未詳	未詳	未詳	男	《歴史的人物：俗人》		
	日野町教育会	失	供出	無	男	《歴史的人物：俗人》		
		失	供出	無	男	《歴史的人物：俗人》		
	中村徳蔵	未詳	未詳	未詳	男	《歴史的人物：俗人》		
	本田日正 大政治昌 渋谷喜助 佐藤鉄太郎 多摩川由太郎 宮岡直記 高原六郎 加藤信義 小原正恒、外二千人	存		移設	男	《歴史的人物：聖人》		
	発起人 三須安五郎 高木金蔵	失	供出	無	男	《歴史的人物：俗人》		

能楽と梨園
僧侶 1%
神官 1%
女流名家 2%
地方的功勞者 11%
地方政治家 3%
飛行家 1%
美術家 1%
社会事業家 1%
発明家 1%
産業開発者 4%
俳人・文人 1%
殉職教導 1%
小学校長 2%
各種教育家 7%
医学者

伊藤博文銅像
（偉人傳第六八頁参照）
所在地 神戸市大倉山公園内
建設年月 明治四十三年一月
（原型作者） 小倉惣治郎
（建設者） 兵庫縣知事 服部二三、神戸市長 鹿島房次郎
（銘記） ナ シ

◆「資料篇」の特色と見本◆

●伝記資料「偉人伝」を収録

●詳細な分析データを附載

初版および第二版所収の銅像写真七〇〇余点に関する充実した統計データを作成収録。統計データを元にグラフ化して分析。
▼タイトル ▼所在地 ▼建設年月 ▼原型作者・彫刻者 ▼建造者 ▼基石設計・石工 ▼構造 ▼工費 ▼建設者 ▼存失状況 ▼失われた理由 ▼現状 ▼性別 ▼像主身分・職業 ▼形式（群像・彫像・レリーフ・碑に分類） ▼形態（全身像・半身像・胸像に分類） ▼姿態（立像・騎馬像・椅像・座像に分類） ▼着衣（和装・洋装に分類） など。

●各種グラフと一覧表

建設、形状、現状について、主要データを見やすいグラフや一覧表に。
▼所在地別建設数 ▼建設件数と建設総数 ▼存失状況 ▼失われた理由 ▼現状 ▼像主男女比 ▼像主身分・職業 ▼像主身分・職業分類上位の建設件数推移 ▼形式（彫像・レリーフの形態・全身像の姿態・群像の形式・形態・姿態・着衣） など。

●便利な索引付き

▼像主索引 ▼製作者索引 ▼所在地索引

写真番号	複製版頁数	初版原頁	第二版原頁	タイトル	所在地	建設年月	原型作者・彫刻者	建造者	基石設計・石工
1	図53	1	1	明治天皇御尊像			渡辺長男		
2	図55	2	2	故小松宮彰仁親王御尊像	東京市上野公園	1912[M45]年3月18日	大熊氏広	陸軍砲兵工廠	東京美術学校 岡田信一郎
3	図55	2	2	故有栖川宮熾仁親王御尊	東京市参謀本部構内	1903[M36]年10月10日	大熊氏広	陸軍砲兵工廠	
4	図57	3	3	故北白川宮能久親王御尊	東京市近衛歩兵第一、二連隊衛門前	1903[M36]年1月28日	新海竹太郎	陸軍砲兵工廠	
5	図57	3	3	故有栖川宮威仁親王御尊	東京市筑地海東東大校	1921[T10]年12月24日	新海竹太郎	海軍造兵廠	
6	図59	4	4	神武天皇御尊像	徳島県徳島市大瀬山公園内	1896[M29]年4月	永尾長左衛門	永尾長左衛門	
7	図61	5	5	龜山上皇御尊像	福岡県福岡市東公園	1905[M38]年4月	山崎朝雲		
8	図63	6	6	聖徳太子御尊像	佐賀県小城市小城町桜岡公園	1925[T14]年4月30日	石橋卯之吉鉄工場		
9	図63	6	6	神功皇后御尊像	富山県下新川郡入善町花月公園	1911[M44]年8月16日	大塚秀之丞		
10	図65	7	7	日本武尊御尊像	石川県金沢市兼六公園	1903[M36]年1月28日 [1880[M13]]年10月	藤田治三郎外六名		
11	図65	7	7	護良親王御尊像	神奈川県鎌倉町鎌倉宮				
12	図67	8	8	秩父宮雍仁親王殿下御尊	東京市赤坂区表町御殿内	1928[S3]年4月23日	朝倉文夫		
13	図69 資49	9	9	親鸞聖人銅像	長崎県佐世保市輪渡越	1925[T14]年10月	田中雪窓	深見平次郎	
14	図69 資48	9	9	弘法大師銅像	福岡県粕屋郡篠栗町	1922[T11]年4月15日			
15	図69 資50	9	9	日蓮上人銅像	福岡県福岡市東公園	1904[M37]年11月	山崎朝雲		
16	図71 資27	10	10	和氣清麻呂石像	福岡県金沢郡足立村安部山				
17	図73 資28	11	11	坂上田村麻呂銅像	長野県南安曇郡温村大字原住吉神社境内	1909[M42]年4月1日	好古斎 清水寅吉	濱館一	
18	図75 資45	12	12	徳川光圀木像	茨城県久慈郡菅田村西山荘内	1690[元禄3]年頃	大田九蔵、前田十郎		
19	図75 資31	12	12	楠正成銅像	東京市宮城前	1897[M30]年1月	高村光雲		
20	図75	12	12	鳴呼忠臣楠子之墓	神戸湊川神社境内	1692[元禄5]年12月21日			
21	図77 資78	13	13	中江藤樹銅像	愛媛県喜多郡大洲町城山公園内	1909[M42]年	杉本傳		
22	図77 資80	13	13	二宮尊徳木像	東京市四谷区左門町八四、二宮徳方	1853[嘉永6]年	荒川泰助		
23	図77 資79	13	13	貝原益軒銅像	福岡県福岡市西町金隆寺内	1916[T5]年9月		磯野七平	
24	図79 資32	14	14	村山義信銅像	長崎県佐世保市八幡町八幡神社境内	1924[T13]年6月21日		桑野元次郎	
25	図79 資29	14	14	波木井實長銅像	山梨県身延山表麓下	1921[T10]年6月	東京美術学校教授 岡田信一郎	谷口清八	
26	図79 資32	14	14	楠正行銅像	富山県東礪波郡城端町				
27	図81 資44	15	15	山鹿素行銅像	兵庫縣赤穂郡赤穂町上殿屋	1925[T14]年3月10日			
28	図81 資47	15	15	大石良雄銅像	東京市芝区高輪泉岳寺境内	1921[T10]年12月14日			
29	図83 資36	16	16	豊臣秀吉銅像	大阪市北区中ノ島一丁目豊臣神社境内	1903[M36]年3月		高尾定吉	
30	図83	16	16	豊臣秀吉銅像	兵庫縣姫路市姫山公園内	1916[T5]年9月27日		岩谷榮太郎	
31	図83	16	16	豊臣秀吉銅像	名古屋市中間町妙行寺内	1916[T5]年7月	大田真成		
32	図85 資33	17	17	太田道灌銅像	東京市東京府庁内	1920[T9]年7月	渡辺長男		
33	図85 資38	17	17	徳川家康銅像	東京市東京府庁内	1920[T9]年7月	渡辺長男		
34	図87 資26	18	18	井戸正明銅像	島根県那賀郡浜田町大字紺屋町三重山	1919[T8]年11月22日	中村市郎右衛門	中村市郎右衛門	近重小次郎
35	図87 資43	18	18	松平直政銅像	島根県松江市城山本丸	1927[S2]年10月5日	米原雲海	安部胤斎	
36	図89 資34	19	19	上杉謙信木像	山形県米沢市上杉神社神照殿	1928[S3]年4月	瀧川美堂		
37	図89 資40	19	19	加藤清正銅像	京都府紀伊郡深草町記念山	1912[T11]年11月	谷口香嶺		北林宗次郎
38	図89 資41	19	19	蒲生氏郷銅像	滋賀県蒲生郡日野字上野田	1919[T8]年4月	石本曉海		
39	図89 資41	20	20	新羅三郎・源義光銅像	長野県南安曇郡一日市場村				
40	図89 資41	20	20	河野通有銅像	愛媛県周桑郡多賀村北條長福寺	1927[S2]年3月16日	今村久兵衛		
41	図89 資41	21	21	日蓮上人銅像	東京府洗足池畔	1924[T13]年4月28日	岡崎雪声	渡辺長男	
42	図89 資41	21	21	加藤清正銅像	東京府下池上本門寺内	1926[T15]年	竹内久一	大賀玉水	

資料篇
見本
75%に縮小

複合的造型としての銅像

北澤憲昭

日本で最初に建立された銅像は、兼六園にあるヤマトタケル像である。これは、西南戦争で没した石川県出身兵士たちの霊を慰め、武勲を讃えるモニュメントであり、当時、県令であった千坂高雅のもとで明治一三（一八八〇）年に建立された。千坂は、欧州に留学した経験があったから、彼の地に立つ銅像の数々を目の当たりにしていたのちがいない。その経験が、おそらくヤマトタケル像建立の原点となったのだろう。しかし、ヤマトタケル像は西洋の銅像とは、そのおもむきを大いに異にしている。

まず、玉眼が用いられていることが注意を引く。玉眼は仏師の伝統技術だからである。また、台座にあたる部分は、前田家の庭師であった太田小兵衛による石積で、盤座を想わせる形状を成している。しかも、その中央には有栖川宮熾仁親王による「明治紀念之標」の文字を刻んだ碑が嵌め込まれるようにして立てられており、さらには群碑が——モニュメントの由来や、戦死者の名や、作成者の中などを記した石碑群が——石積と彫像を取り巻いているのである。

ここには、たんに「銅像」と呼んで済ますことのできない在り方が認められる。一言でいえば、この日本最初の銅像へと至る古代からの歴史が集約されているおもむきなのだ。宗教的造型、文字による顕彰、そして人間像による記念という諸次元の集約的な混在である（ヤマトタケルは神話のキャラクターだが、この銅像は、儀軌に従う仏像に比べれば、ずっと人間の姿に近いといえるだろう）。

このような混成的な在り方は、兼六園のヤマトタケル像ばかりではなく、かたちを変えて銅像一般に見出される。すなわち、石の台座、台座に記し付けられた銘文、そして彫像から成る複合性である。こうした銅像の混成的な在り方は、「日本近代」の成り立ちと相即的な関係にあると考えられるのだが、複合されている諸要素のうちで最も近代性を帯びているのは、複合までもなく彫像である。近代とは、ハイデガーが指摘したように「世界像の時代」、いかえればイメージの時代なのだ。石碑という——江戸時代までに確立され、明治以後に隆盛をきわめる——エクリチュールを従え、古代的な石積を踏まえて佇立するヤマトタケル像が示しているのは、まさにこのような時代の到来なのである。彫像は、絵画以上に現前性に強く傾くとはいいいながら、それがイメージにかかわる表現であることに変わりはない。それゆえに彫刻

は絵画と共に「美術」としてひとまとめにされ、近代を代表する芸術ジャンルともなったのであった。

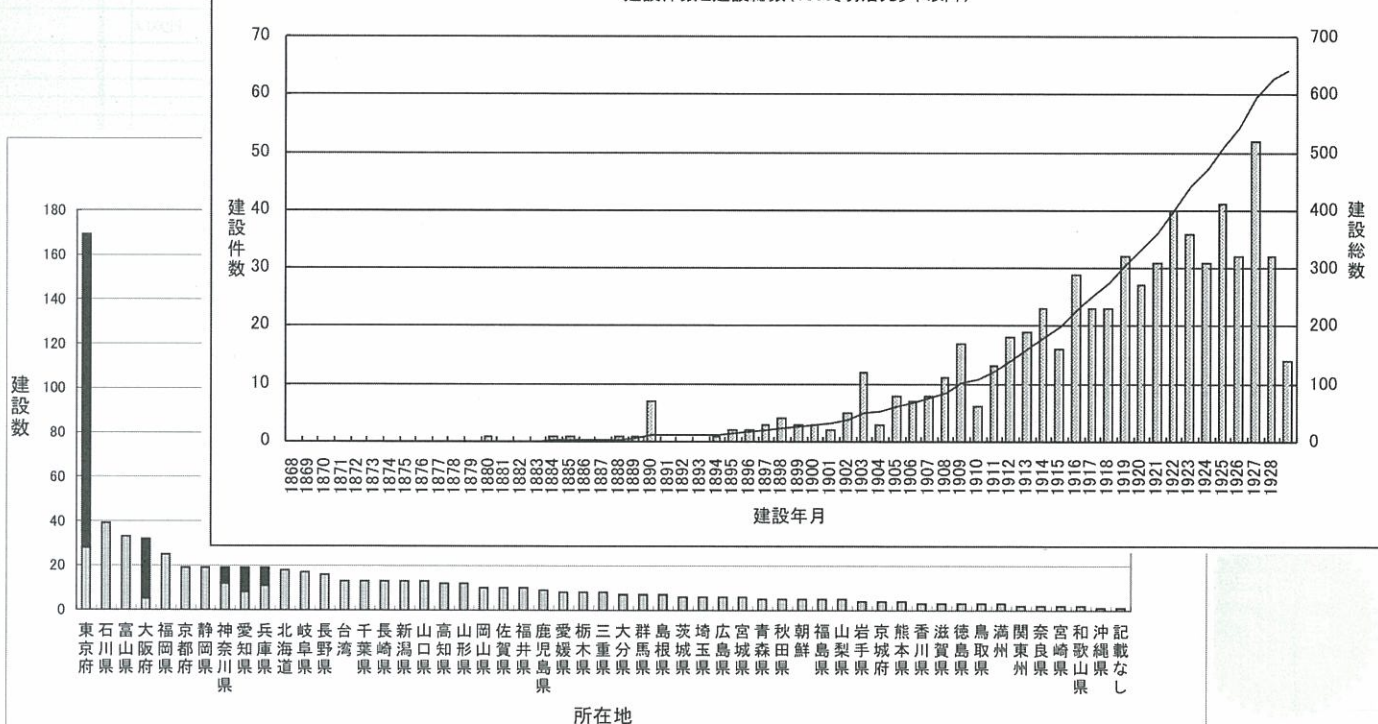
以上に述べたように複合的造型としての「銅像」は、日本におけるモニュメントの在り方について、また近代造型史の始まりについて考えるにあたって決して避けて通ることのできないジャンルであるのだが、それについて知るうえで欠くべからざる資料がある。昭和三（一九二八）年に二六新報社から第一版が刊行された銅像写真集『偉人の倂』である。この資料集には、今は既に存在しない銅像の数々が収録されているのだ。さいわいヤマトタケル像は今に残ったものの、銅像の多くは、アジア太平洋戦争中の金属供出によって——あるいは、それを促す象徴行為として——多くが破壊され、また、敗戦直後にも占領軍のもとで軍国主義的な彫像の撤去が行われたため、現存するものはきわめて少ない。それゆえ、近代日本の銅像について考え、語るためには、どうしても、こうした記録に頼らざるをえないのである。

類書がないわけではなく、また編集上のモデルとなつたとおぼしき書籍もないわけではないものの、『偉人の倂』は収録数とデータの詳細さにおいて他を圧している。収録された写真はおよそ七〇〇点、基本データとして原型作者（彫刻家名、鑄造家名、制作年、建立場所、施主などを記載し、さらに碑文も採録している。そればかりか像主の伝記も——すべてにわたってではないものの——本書には収められている。また、このたびの復刻では、第一版を基本として、そこに第二版で増補された写真を加え、さらに同書所収の銅像に関する統計表——ポーズ、服装、身分、職業などによる分類、建立数の変遷、第二版との異同等にかんする表が付載されることになっている。

『偉人の倂』が刊行されたのは大正から昭和への変わり目の時代であり、つりゆく社会的不安のなかで鶴見祐輔の『英雄待望論』が広く読まれるような状況であった。発刊の趣旨に「偉人傑士あれば其国必ず興り、之れなければ必ず衰ふ」とあるのが、刊行の動機を明確に物語っている。本書の成立には不明なところが多く、石碑や江戸時代の本像を含むなど杜撰なところもないではない。とはいえ、日本近代における銅像を知るうえで本書に勝る史料はない。本書は、まごうかたなく第一級の史料であり、日本近代美術史のみならず、政治史や思想史の研究にも資するところが大きいのにちがいない。銅像について考えることは「日本近代」を考えることにほかならないからである。

（美術評論家・女子美術大学教授）

建設件数と建設総数(1868[明治元]年以降)



銅像写真集 偉人の倂 全2巻

2009年7月刊行

[監修・解説] 田中修二 大分大学准教授・近現代日本美術史 [シリーズ総監修] 北澤憲昭 美術評論家・女子美術大学教授 A4横判/上製

図録篇/資料篇 全2巻 ● 揃定価60,900円(本体58,000円・分売不可) ISBN978-4-8433-3037-1 C3571

『偉人の倂』(初版・昭和3年、第二版・昭和4年、二六新報社)は、おもに明治から昭和初年に建設され、当時すでに日本国内および満洲・朝鮮・台湾などに存在した記念像・記念碑700基余りを、ほぼ網羅した写真集である。像主は、神話上の人物(神武天皇、日本武尊等)、歴史的な宗教家、明治天皇、華族、明治・大正期の政治家および軍事関係者、実業家、さらには各地方で功績のあった人物までと多岐にわたる。

しかし掲載された記念像・記念碑の多くは、アジア太平洋戦争中の金属供出や戦後改革によって撤去されているため、その意味でも、『偉人の倂』は貴重な記録資料となっている。復刻版では、初版に第二版新規収録分を加え再編集した。

本書は日本近代美術史研究の基礎資料としてのみならず、政治史、軍事史、経営史、地方史の重要史料でもある。ジャンルを超える史料集として、ひろく近代史研究者の方々にお勧めしたい。

※以下続刊予定

- 『京浜所在銅像写真(第1輯)附伝記』人見幾三郎著(諏訪堂 明治43年)
- 『大日本銅像鑑(第1輯)』栗田清美著(大日本史蹟研究会出版部 昭和9年)
- 『帝国銅像鑑(上巻)』栗田清美著(大日本帝国史蹟研究会出版部 昭和10年)

表紙図版解説

①坂上田村麻呂(長野 1909年) 桓武天皇の命令で蝦夷討伐を行った坂上田村麻呂は、近代日本においても武神として戦勝祈願の対象となった。台座となっている石組みが、圧巻。戦時供出により失われたが、現在同地に別の坂上田村麻呂の銅像が建っている。

②石黒忠恵、松本順(東京 1915年) 石黒忠恵は、松本順(松本良順)の勧めで兵部省に入り日本陸軍軍医を務め、草創期の軍医制度を確立した。この銅像は、松本順の胸像の脇に立つ石黒忠恵の全身像という珍しい形式をとっている。焼失。

③清水次郎長(静岡 1927年) 任侠。明治となり博打を止めた後は清水港の発展のために尽くし、その精神に惹かれた現地の人が、昭和に入って清水港近くの寺に銅像を建てた。台座の上に直立する銅像が多いなか、このポーズは珍しい。戦時供出により失われたが、同所に同じポーズをとる別の銅像が建てられている。

④市川團十郎(九代目)(東京 1918年) 歌舞伎役者。生前、歌舞伎の近代化に努めて劇聖と称された。彼の死後、東京浅草寺に『暫』の鎌倉権五郎を演じる九代目の銅像が建てられた。戦中に金属供出で失われるも、戦後、以前の像の写真をもとにして同地に復元された。

⑤水野遵(台湾 1902年) 台湾総督府の初代民政長官。この時期の台湾総督府は軍事行動を全面に出し強硬な統治政策を取った。各政策実務を統括する立場にあった水野は、抗日運動を行う台湾住民の取り締まりを行った。水野の銅像は四代目民政長官となった後藤新平により建立され

るが、これは台湾における、ひいては外地における最初の銅像となった。しかし、終戦の混乱によって銅像は失われた。

⑥佐藤志津(東京 1915年) 女子美術大学初代校長。数少ない女性の銅像である。戦中の金属供出で失われるも、戦後新しく本像に似せた胸像が建てられた。

⑦浜口梧陵(和歌山 1919年) 産業開発者、地方政治家。安政元年の大津波の折り、大量の藁に火をつけて安全な高台へ村人を導き救った。その行動は『稲むらの火』として国定教科書に採用され、小泉八雲により海外へも広く紹介された。被災後、浜口は橋の修理や当時最大級の堤防の修造を行った。この工事は、荒廃した被災地からの住民離散を防ぐ意味を持つとともに、将来の津波に備えての防災事業であった。復興と防災に投じた莫大な費用は全て浜口の私財を投じたものであった。彼の死後、村には二丈(約6M)の銅像が建てられたが、戦時中に供出、現在は松明を掲げ走る浜口の銅像が建てられている。

⑧琴陵有常(香川 1927年) 金比羅宮宮司。明治維新に際して従来神仏混淆であった金毘羅大権現を、神社として「金刀比羅宮」に改めた後、海難救助を目的とした日本水難救済会を設立し社会事業を手がけた。彼の死後、銅像が建てられたが、これは戦中に失われた。戦後、同じポーズの銅像が同地に再建され、この銅像の前で彼の業績を讃える琴陵有常大人命銅像祭が毎年4月13日に行われている。

ゆまに
書房 YUMANI
SHOBOU

〒101-0047
東京都千代田区内神田2-7-6
TEL.03(5296)0491
FAX.03(5296)0493
http://www.yumani.co.jp/
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方●

歴史社会学、政治史、地方史、軍事史、経営史、技術史、思想史、日本近現代美術史の研究者、研究機関、公共図書館、銅像に関心のある方など。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日		※毎度ありがとうございます。お申し込みはぜひ当店へ。	
ご注文書	銅像写真集 偉人の倂 (おもかげ) 全2巻 揃定価60,900円(本体58,000円・分売不可) ISBN978-4-8433-3037-1 C3571		取扱店
	セット		
	お名前		
ご住所	TEL ()		 09.06/01.7000.H